

## 治具/工具編

## 第21章

黙っていてごめんなさい! 便利品8選

## はんだ付けに欠かせない小道具あれこれ

川藤 光裕 KAWAFUJI Mitsuhiro

はんだ付けは、「はんだこて」と「はんだ」があればできますが、作業を効率化し、より美しく、そして確実に仕上げるためには、他にもさまざまな道具がそろっていると便利です。

ここでは、私が普段使っている、こて先、チップ・リフレッサ、ルーペ、ピンセット、はんだ吸い取り器、ハックルなどを紹介します。どれも一見地味な存在ですし、中には「何だ、それは?」というものもあるかもしれません。しかし、どれも私にとってはとても便利で欠かすことのできない重要なものです。

## 便利品① こて先D型

はんだこてを買うと、こて先は付いています。しかし、それ以外にも、B型、C型、D型、J型、K型など、たくさん種類のこて先があります。

写真1に示すこて先は、私の手元にあるものです。それぞれ特徴がありますが、主に使っているのは右から2番目のD型と呼ばれるタイプで、その中でも24Dと呼ばれる先端の幅が2.4mmのものです。これ1つで、ほとんどの作業を行っています。

写真でもわかるかと思いますが、24Dは先端がやや太めです。細いこて先だとはんだ付けしようとする相手に熱を奪われてしまい、案外難しいものです。しかし、24Dはある程度の太さがあるので、熱容量

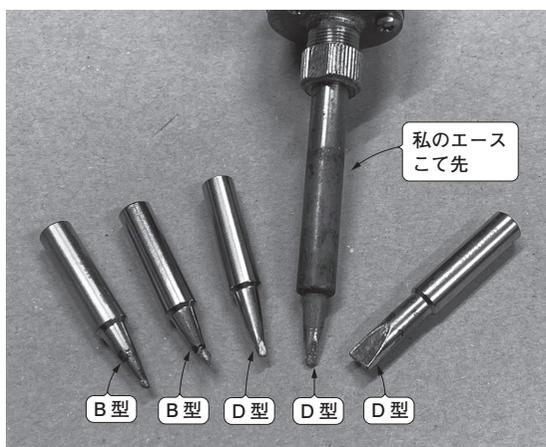


写真1 筆者の手元にある愛用のこて先  
B型、D型同じ型の中でも、太さによって細かく分かれている。主に使うものは右から2番目のD型(24D)

が比較的大きく、基板やリード線などをしっかり温めることができ、きれいにはんだが流れてくれます。

D型の特徴は先端がマイナス・ドライバのような形状であること(写真2)。こて先を当てる角度によって、小さい部品から比較的大きなものまで適応できます。2012サイズ(2.0mm×1.2mm)のチップ部品からSOPなどの表面実装IC、リード部品、コネクタ類まで大抵のものはこの24D型のこて先で事足りています。

とはいえ、もっと小さい1608サイズ(1.6mm×0.8mm)のチップ部品にはもっと細いこて先、逆に大きな同軸コネクタ(いわゆるMコネ)はもっと太いこて先のほうが付けやすいです。そのあたりは適材適所ですが、圧倒的に出番が多いのは24Dです。

ちなみに、はんだこては白光のFX-600(写真3)を愛用しています。これで使えるこて先一覧は次のWebページを参照してください。

[https://www.hakko.com/japan/products/hakko\\_fx600\\_tips.html](https://www.hakko.com/japan/products/hakko_fx600_tips.html)

## 便利品② 黒くなった小手先をリフレッシュ! チップ・リフレッサ

はんだこては使っているうちにこて先が黒ずんできて、はんだのノリが悪くなることがあります。昔ながら



写真2 主に使っているものはD型と呼ばれる先端がマイナス・ドライバに似た形状

写真3 筆者が使っているのは、セラミック・ヒータ・タイプのはんだこてFX-600(白光)  
200~500℃まで調整可能で、交換こて先が30種類以上ある

